

試験研究成果普及情報

部門	森林保全（環境保全、その他）	対象	行政
課題名：千葉県における花粉の少ないヒノキの選抜			
[要約] 採種園に植栽されたヒノキ精英樹の雄花着花性には品種間差があり、着花性の低かった5品種を千葉県における花粉の少ないヒノキ品種として選抜した。			
フリーワード ヒノキ、少花粉品種、雄花着花性			
実施機関名	主 査 農林総合研究センター森林研究所 協力機関		
実施期間	2006年度～2010年度		

[目的及び背景]

スギ花粉症同様に、ヒノキ花粉症も大きな社会問題となっている。林木育種面からの対策として、スギでは少花粉品種の種苗供給が実施されているものの、ヒノキでは選抜されている少花粉品種の数が少なく、少花粉品種を用いた採種園による積極的な種苗供給はまだ行われていない。そこで、千葉県に合った花粉の少ないヒノキ品種を選抜することを目的に、採種園において、ヒノキ精英樹の雄花着花性を調査した。

[成果内容]

- 1 採種園に植栽された、林業用優良品種であるヒノキ精英樹の雄花着花性に、品種間差が認められた（図1）。
- 2 林野庁の花粉の少ないヒノキ品種として登録手続き中である鬼泪4号、既に登録されている新城2号、及び両品種と雄花着花性に統計的な差がなかった札郷2号、丹沢7号、秋元1号の5品種を、千葉県における花粉の少ないヒノキ精英樹として選抜した（図1）。
- 3 採種園と次代検定林の調査から、雄花の着花形質は遺伝性が高いことが分かっている。よって、今回選抜した品種は、千葉県に合った少花粉ヒノキの種子生産に貢献できる。

[留意事項]

[普及対象地域]

県内全域

[行政上の措置]

[普及状況]

[成果の概要]

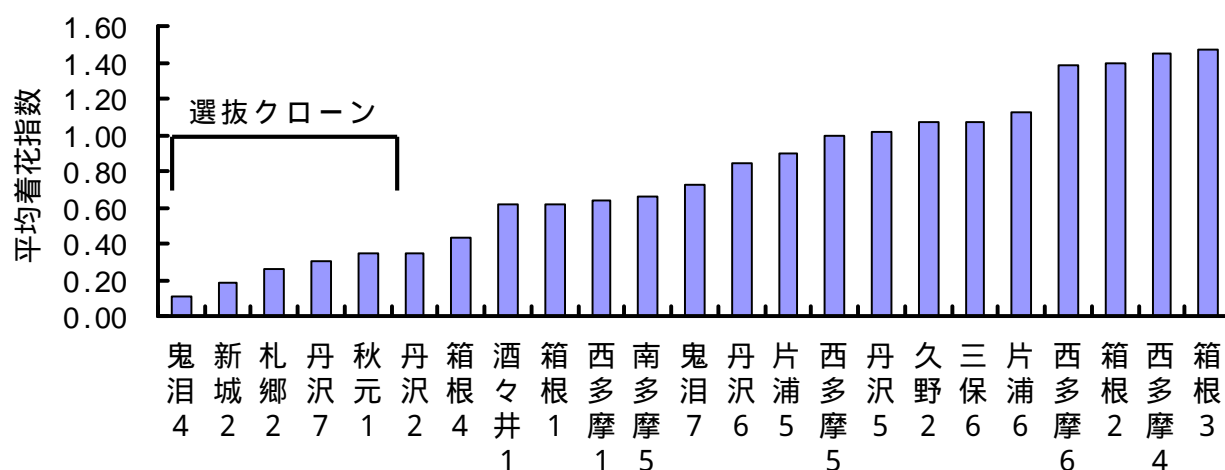


図1 ヒノキ採種園における平成 10~ 22年の品種ごとの平均着花指数

注1) 着花性は無着花から多く着花(0~3)までの4段階で指数評価

2) 各品種の調査本数は1~18本/年、平均6本/年

[発表及び関連文献]

- 1 ヒノキ採種園と次代検定林の雄花着花状況から推定した遺伝率と育種効果、日林誌 85 241~ 244
- 2 (独)森林総合研究所林木育種センター優良品種評価委員会品種評価基準

[その他]

鬼涙4号は成長・通直性に優れ、関東育種基本区ヒノキ推奨品種に登録されている。